

	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)	
事業名	女性アスリートの育成・支援プロジェクト			担当部局庁	スポーツ庁		作成責任者
事業開始年度	平成25年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	競技スポーツ課		競技スポーツ課長 西川 由香
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	第3期スポーツ基本計画(令和4年3月25日策定) 持続可能な国際競技力向上プラン(令和3年12月27日策定) 男女共同参画基本計画(令和2年12月25日閣議決定) 成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針(令和3年2月9日閣議決定)		
政策	11 スポーツの振興			主要経費	教育振興助成費		
施策	11-3 国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備						
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-08.pdf						
事業の目的 (5行程度以内)	ジュニア層を含む女性アスリートが健康に競技を継続できる環境整備のため、無月経をはじめとする女性アスリートの三主徴や妊娠・出産などの課題に対応した科学的根拠に基づくサポートの充実やジュニア世代のアスリートや指導者の理解促進を図ることを目的とする。						
現状・課題 (5行程度以内)	スポーツを通じた女性の活躍促進として、女性トップアスリートの競技力向上を支援することが謳われており、女性アスリートが競技力向上を図りながら健康に競技を継続できる環境整備や、競技引退後も活躍できるような支援の充実が求められている。そのような中で、女性アスリートの健康課題への認識は高まりつつあるものの、各競技別の健康課題に配慮したトレーニング方法や産前産後期におけるトレーニング方法などはまだ確立していない。 さらに、女性エリートコーチの育成については、実践機会が十分に得られない現状やパラ競技における育成手法が確立していないことや、ジュニア世代においては、学校部活動の指導者の女性の健康課題に配慮した指導に関する知識が不足しており、地方自治体における支援体制が整備されていないなどの課題がある。						
事業概要 (5行程度以内)	○トップアスリートへの支援として、産前産後の競技復帰に向けたトレーニング指導等の医・科学サポートや育児と競技を両立するための託児等の支援、相談窓口の設置・運営などを実施する。また、女性の視点とアスリートとしての高い技術・経験を兼ね備えた女性エリートコーチを育成するプログラムを実施する。 ○女性の健康課題に対応した年代別・競技別のマニュアル策定や女性アスリート支援情報プラットフォームの構築などに取組み、中高生含むジュニアアスリートへの対応の充実を図る。 女性アスリート支援プログラム(H25～終了予定なし) 女性アスリートの課題解決型実践プログラム(R4～R5終了予定、一部を「女性アスリート支援プログラム」に移行。) 女性エリートコーチ育成プログラム(H28～R5終了予定、一部を「女性アスリート支援プログラム」に移行。)						
事業概要URL	https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop07/list/1411047.htm						
実施方法	委託・請負						
補助率等	-						
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
	予算の 状況	当初予算(A)	211	196	200	194.7	0
		補正予算(B)	-	-	-	-	
						-	
						-	
						-	
						-	
						-	
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	
	予備費等(E)	-	-	-	-		
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	211	196	200	194.7	-	
	執行額(G)		200	190	181.5		
	執行率(%) =(G)/(F)		95%	97%	91%		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		95%	97%	91%			
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)	スポーツ振興費			独立行政法人日本スポーツ振興センター運営費交付金として要求するため。		
	(目)	スポーツ振興事業委託費	194.3	0.0			
	(目)	諸謝金	0.2	0.0			
	(目)	委員等旅費	0.1	0.0			
	(目)	職員旅費	0.1	0.0			
		その他	0.0	0.0			
	計(A)		194.7	0			

活動内容① (アクティビティ)		身体的・心理的な課題を抱えている女性のトップアスリートを対象に、婦人科医や専門家が連携した相談体制を整備する。また、女性アスリートが心身ともに健康に競技活動が継続できるよう産前産後の競技復帰に向けたトレーニングサポートや育児サポート等の支援プログラムを実施する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		女性アスリートの産前産後期のトレーニング指導等の医・科学サポートの事例蓄積	産前産後期のトレーニング指導等の医・科学サポート実施数(延べ数)	活動実績	件	126	153	226	-	-
				当初見込み	件	-	-	150	226	226
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	女性アスリートが安心して競技を継続できる環境整備の満足度100%を目指しているが、強化合宿時や海外遠征時の24時間ベビーシッター支援などにはまだ実績がなく、ニーズ抽出や実証検証が必要であるため、短期的な目標として満足度80%を目指す。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度	
		産前産後期のトレーニング指導等の医・科学サポートの満足度向上	産前産後期のトレーニング指導等の医・科学サポートの満足度(5段階評価で4以上と評価したNFの割合)	成果実績	%	-	-	-	-	
				目標値	%	-	-	-	80	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		上記サポートを受けた人を対象とする評価アンケートを実施。#R4分は集計中。								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	産前産後期、育児期への支援体制を、NFに展開し、各アスリートの居住地でも産前産後期、育児期サポート体制が100%となる支援担当者配置を目指す。支援サポート人材の育成にも時間がかかることから、中期目標として各NFに支援担当者が配置される割合の目標値を90%とする。								
成果目標及び成果実績 ①-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度	
		産前産後のトレーニング指導等の医・科学サポートとして、各NFにおける女性アスリート支援機能の整備	各NFにおける女性アスリート支援の整備として、支援担当者の配置割合	成果実績	%	-	-	-	-	
				目標値	%	-	-	-	90	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		オリ・パラ競技団体を対象にした、アンケート調査を実施予定。								
↓	成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)	女性アスリートの抱える様々な健康課題、産前産後期、育児期のトレーニング指導等の医・科学サポート、育成・強化の段階に応じた課題対応、これらが充実した環境づくりを目指して、女性アスリートの強化指定選手の「健康課題に対する障壁がなく、ライフイベントにも前向き取り組めている」という環境満足度100%を目指す。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		競技の継続において、健康課題や出産を問題と感じない女性アスリートの割合増加	競技の継続において、健康課題やライフイベントを問題と感じない強化指定選手の女性アスリート割合	成果実績	%	-	-	-	-	
				目標値	%	-	-	-	100	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		日本スポーツ振興センター(JSC)らによって、オリ・パラ競技大会に向けた準備に入るおよそ2年前を目安に、アンケート調査を実施。								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		-								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		-								

活動内容② (アクティビティ)		女性の視点とアスリートとしての高い技術や経験を兼ね備えた女性エリートコーチを育成するため、強化現場での実践経験やコーチングスキルを習得するための学習機会を提供する育成プログラムを策定・実施する。またパラリンピック競技に特化したエリートコーチ育成プログラムを策定するため、課題抽出やプログラム構築に取り組む。								
↓										
活動目標及び活動実績② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		女性エリートコーチ育成プログラムの受講者の増加	プログラム受講者数/年	活動実績	人	12	16	16	－	－
				当初見込み	人	12	16	16	16	16
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	女性の視点とアスリートとしての高い技術や経験を兼ね備えた女性エリートコーチの、育成支援の充実により、ナショナルチームで指導する女性コーチの増加を目指す。受講生すべての指導者採択を目標とすることから、R4までの受講人数(47人)を目標値に設定する。								
成果目標及び成果実績②-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度	
		ナショナルチームレベルで指導する女性コーチの増加	プログラム受講者が、ナショナルチームレベルで指導する人数	成果実績	人	－	18	－	－	
				目標値	人	－	31	47	47	
				達成度	%	－	58.1	－	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		指導者に採択されたプログラム受講者 /プログラム受講者 #R4年度は集計中。なお、受講者は2年ごとに新規募集するため、R4とR5の目標値(人)は同じとなる。								
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	女性の視点とアスリートとしての高い技術や経験を兼ね備えた女性エリートコーチを育成支援の充実により、ナショナルチームで指導する女性コーチの増加を目指す。しかし、現在すでに優秀女性指導者も多数存在していること、R4は新規受講者受け入れ年であり、R3までののべ31人に対してR4で16人と大幅増となる年度であること、新規受講者がすぐに指導者として採択される可能性は低いこと、これらを鑑み、R6年度の目標値は、受講生の増加率(31人から47人に増加＝増加率151%)から算出して、現在の採択指導者5人×151%＝8人と設定する。なおR4年度は、まだオリ・パラ競技大会チームが構成されていないため、記載無しとする。								
成果目標及び成果実績②-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度	
		ナショナルチームで指導する女性コーチの増加	プログラム受講者が、ナショナルチームで指導する人数の増加	成果実績	人	－	5	－	－	
				目標値	人	－	－	－	8	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		オリ・パラ競技大会で、指導者に採択されたプログラム受講者の実績値								
↓	成果目標②-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)	ナショナルチームコーチに採択されるために備えておくべき知見・ノウハウなどの教育プログラムを充実させることにより、ナショナルチームで指導する女性コーチの増加を目指す。長期的目標値はロス大会までにブライトン＋ヘルシンキ2014宣言で表明されている40%と設定する。								
成果目標及び成果実績②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 10 年度	
		ナショナルチームで指導する女性コーチの増加	ナショナルチームで指導する女性コーチの割合	成果実績	%	－	－	－	－	
				目標値	%	－	－	－	40	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		ナショナルチームでの女性コーチ人数 / ナショナルチームでの全コーチ人数。 目標値40%は、ブライトン＋ヘルシンキ2014宣言「あらゆる行政組織の最小の数値目標は、2020 年までに 40 パーセントに引き上げられるべきである。」を参考に設定した。 https://www.joc.or.jp/about/women-leader/words/12.html								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由								
		－								
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								

活動内容③ (アクティビティ)		女性アスリートが抱える健康課題等に関する調査研究や支援プログラム等の成果や知見を、実際に強化現場などで使用できるよう、競技特性や各種課題に対応したものとして整理したマニュアルの策定やプログラムの作成をするとともに、それらを用いた実践的な事業を実施する。									
↓											
活動目標及び活動実績 ③ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		女性アスリートの健康課題に対応したマニュアル等を策定する	女性アスリートの健康課題に配慮した指導・トレーニングマニュアルの策定取組数	活動実績	件	-	-	4	-	-	
				当初見込み	件	-	-	4	4	4	
↓	成果目標③-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	女性アスリートの健康課題に配慮した指導など、活動環境充実のために、認識率を100%に高めることを目指す。									
成果目標及び成果実績 ③-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 7 年度		
		NFや都道府県における女性アスリートの健康課題に配慮した指導・トレーニングの必要性の認識の向上	NFや都道府県の、女性アスリートの健康課題に配慮した指導・トレーニング必要性の認識度(5段階評価)	成果実績	%	-	-	-	-		
				目標値	%	-	-	-	100		
				達成度	%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		NFや都道府県に対して、女性アスリートの健康課題に配慮した指導・トレーニングマニュアルの周知、通知事務連絡の発出									
↓	成果目標③-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	中高生部活動女子を含む女性アスリートの、健康課題に配慮した指導活動など、環境充実のための取組を行う団体100%を目指す。									
成果目標及び成果実績 ③-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 8 年度		
		全てのNF、都道府県において、女性アスリートの健康課題に配慮した指導などの取組が行われている。	女性アスリートの健康課題に配慮した指導に取り組むNFと都道府県の割合	成果実績	%	-	-	-	-		
				目標値	%	-	-	-	100		
				達成度	%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		女性アスリート、中高生部活動女子の健康課題に配慮した指導等について、認識を高める取り組みとして、研修会の開催などを行っている団体の割合についてアンケート調査を実施。									
アウトカム設定について の説明		アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由									
		-									
		-									
		アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由									
		-									
事業に関連する KPIが定められて いる閣議決定等	名称	-									
	URL	-									
	該当箇所	-									

[illegible]

資金の流れ
(資金の受け取り先が
何を行っているかにつ
いて補足する)
(単位: 百万円)

スポーツ庁
181.5百万円

【職員旅費等 0.3百万円を含む】

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等における女性アスリートの活躍に向けた支援や、ジュニア層を含む女性アスリートが、健康でハイパフォーマンススポーツを継続できる環境の整備、女性アスリートが持つ課題の解決に向けた医・科学サポート等を活用した支援プログラムなどを実施する。

【随意契約(企画競争)・委託】

「女性エリートコーチ育成プログラム」

【A】女性アスリート支援プログラム
(独立行政法人 日本スポーツ振興センター)

60百万円

女性アスリートが、ジュニアからトップレベルまで、競技力向上を図りながら層を含む女性アスリートが、健康に競技を継続できる支援環境の整備を目的とした活動に取り組

「女性アスリート支援プログラム」

【B】女性エリートコーチ育成プログラム
(学校法人 日本体育大学)

32.6百万円

女性エリートコーチの育成プログラムを実施し、得られた知見を中央競技団体等に展開することにより、女性トップアスリートの競技力向上を支援する。

「中高字部活動における女子生徒の課題解決型実践プログラム」

【C】女子成長期の運動部活動に関する実態調査
(株式会社 リベルタス・コンサルティング)

17.6百万円

中学校及び高等学校で学校運動部活動に所属している女子生徒を対象に、今後の中高生女子アスリートの健康課題の解決方法の企画、立案、実施の基礎資料

「女性アスリートの課題解決型実施プログラム」

【D】女性アスリートのための次世代型の
課題解決マニュアル及び手順書の実装
(学校法人 立命館)

24.9百万円

これまでの知見や成果等を分かりやすく集約し、年代と競技特性考慮してジュニア期以降の女子選手が活躍できるマニュアル、手順書を作成する。また健康的に私生活や競技生活を送ることにつながる

【E】女性アスリートのコンディショニング教育プログラムの構築
(学校法人 日本体育大学)

21.4百万円

女性アスリートが持つ健康課題に着目した研究活動によって得られた知見をもとに、女性アスリートのコンディショニング教育プログラムを構築し、競技団体に広く展開することで、女性アスリートの

【F】産官学連携による女性アスリートの
医科学支援拠点の形成
(学校法人 新潟総合学園
新潟医療福祉大学)

我が国のスポーツに関する国際競技力向上を図るため、次世代アスリートの発掘・育成・強化などの戦略的な選手強化の支援のための事業を行う。

費目・使途 (「資金の流れ」において ブロックごとに最大の金 額が支出されている者につ いて記載する。費目と 使途の双方で実情が分 かるように記載)	A.			B.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	人 件 費	サポートスタッフ、事務スタッフ 等	30.2	人件費	サポートスタッフ、事務スタッフ 等	20.2
	雑役務費	サポート機器ライセンス、複合機保守 等	12.1	一般管理費	直接経費の10%	3
	一般管理費	直接経費の10%	4.7	旅費	大会・合宿等移動費、現地調査 等	2.8
	諸謝金	サポート委嘱スタッフ、サポート外部協力者 等	4.5	雑役務費	サポート機器ライセンス、複合機保守 等	2.2
	旅費	大会・合宿等帯同サポート、現地調査 等	3	消費税相当額	人件費、外国旅費×10% 等	2
	消費税相当額	人件費、外国旅費×10% 等	3.1	諸謝金	サポート委嘱スタッフ、サポート外部協力者 等	1.6
	印刷製本費	資料印刷、配布物 等	1.5	消耗品費	機材等運搬、超過手荷物、資料作成文具 等	0.4
	消耗品費	機材等運搬、超過手荷物、資料作成文具 等	0.2	借損料	PC、複合機、什器 等	0.3
	借損料	PC、複合機、什器 等	0.2	通信運搬費	機材等運搬、超過手荷物、通話料 等	0.1
	通信運搬費、会議費	機材等運搬、手荷物代、通話料 会議室レンタル等	0.1			
	計		60	計		32.6
	C.			D.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	人件費	サポートスタッフ、事務スタッフ 等	9	人件費	サポートスタッフ、事務スタッフ 等	9
	雑役務費	ノートPC、サポート機器 等	3.6	設備備品費	ノートPC、サポート機器 等	3.9
	一般管理費	現地出張費、実証検証移動費 等	1.6	旅費	現地出張費、実証検証移動費 等	3.2
	印刷製本費	直接経費の10%	1.2	一般管理費	直接経費の10%	2.3
	通信運搬費、借損料	サポート機器ライセンス、複合機保守 等	1.2	雑役務費	サポート機器ライセンス、複合機保守 等	2.2
	消費税相当額	機材等運搬、超過手荷物、資料作成文具 等	1	消耗品費	機材等運搬、超過手荷物、資料作成文具 等	2.2
	諸謝金	サポート委嘱スタッフ、サポート外部協力者 等	0	諸謝金	サポート委嘱スタッフ、サポート外部協力者 等	0.9
				印刷製本費	資料印刷、配布物 等	0.7
				消費税相当額	人件費、外国旅費×10% 等	0.5
				通信運搬費、借損料	機材等運搬、超過手荷物、通話料、複合機 等	0
	計		17.6	計		24.9
	E.			F.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	雑 役 務 費	サポート機器ライセンス、複合機保守 等	18.3	設備備品費	ノートPC、サポート機器 等	11.2
	一 般 管 理 費	直接経費の10%	2	雑役務費	サポート機器ライセンス、複合機保守 等	4.6
	諸 謝 金	サポート委嘱スタッフ、サポート外部協力者 等	0.4	諸謝金	サポート委嘱スタッフ、サポート外部協力者 等	3.6
	旅 費	現地出張費、実証検証移動費 等	0.3	一般管理費	直接経費の10%	2.3
	借 損 料	PC、複合機、什器 等	0.3	消耗品費	機材等運搬、超過手荷物、資料作成文具 等	1.6
	消 耗 品 費	機材等運搬、超過手荷物、資料作成文具 等	0.1	人件費	サポートスタッフ、事務スタッフ 等	1
				旅費	現地出張費、等	0.6
				消費税相当額	人件費、外国旅費×10% 等	0.1
	計		21.4	計		25
費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載				チェック		

支出先上位10者リスト

A.								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	独立行政法人日本スポーツ振興センター	5011105002256	女性アスリートの戦力的強化に向けた調査研究	60	随意契約(企画競争)	2	100%	－
B								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	学校法人日本体育大学	5010905000774	女性アスリートの戦力的強化に向けた調査研究	32.6	随意契約(企画競争)	1	100%	－
C								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社リベルタス・コンサルティング	4010401058533	中高部活動における女子生徒の課題把握調査	17.6	一般競争契約(総合評価)	1	100%	
D								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	学校法人立命館	9130005004289	女性アスリート支援プログラム	24.9	随意契約(企画競争)	9	100%	－

